時代長編漫画

甲賀忍法帖

目次

長編時代漫画
甲賀忍法帖
作 山田風太郎
構成 企画 東邦プロダクション

時代長篇漫画
甲賀忍法帖
1

甲賀忍法帖で活躍する人々……
甲賀十人衆
弾正
弦之介
将監
丈助
豹馬
如月
陽炎
刑部
お胡夷
十兵衛
伊賀十人衆
朧
お幻
蝋斎
天膳
念鬼
雨夜
夜叉丸
螢火
赤まむし
小四郎

死の人別帖

こまったことじゃ……国千代竹千代二人ともわしにとってはかわいい孫……
だが双子と生まれてきてはどちらに徳川家をつがせるべきかさすがにこの家康もまよっておる
そのために家中のものは竹千代さま方国千代さま方の二つにわかれにくみあっております

これいじょうほおっておけば徳川家はうちわもめからくずれさってしまいましょう

そこじゃよ天海なにかよい方法はないものかのう？

さよう……

いかがでござるいっそ両方から一名ずつ剣士をださせその勝敗によって決しては

一案じゃしかし一人対一人の勝負には時の運不運ということもある
それでは五人ずつ!!

その五人にだれをえらぶかでまたさわぎがおころう

十人ずつ!!
これなら両方なっとくいくまでたたかえましょう

うむ
十人ずつ……

いやいかん たたかうといっても 徳川の者どうしじゃ かえってあらそいはふかくなるばかりであろう

……
……

忍者では？

忍者？
さよう 忍者をつかうのでござる

伊賀と甲賀に四百年の昔から敵としてにくみあう二つの忍者の一族があるとか……
ただかれらが殺しあわぬのは忍者の頭領服部半蔵にきつくとめられているためときまする
いかがでござろう服部半蔵にめいじ甲賀伊賀二つの一族を国千代さま竹千代さまにふりあてたたかわしてみましては……
ふっふふなるほどのそれなればその者共をすべて血の海にほうむろうと徳川家のさむらいには傷はつかぬな
さよう一石二鳥のたとえでござるよ
ふふふ

くらえっ!!
くくくく
くくく
はっ

わっ!!

な、なんだこれは!
と、とれぬ!!

む!

それ こんどは右の目だ！
うう……
ばかめ！ 二度おなじてはきかぬわ!!

ぐぐぐ みたか 甲賀忍法 くも糸の 術!!
この将監を 殺れるか 殺れぬか せめてこの網を やぶって みよ!!

む！
とはわらわせ
る こい!!
こい!!

やるな夜久丸（やくまる）!!
スル
スル
スル
スイッ

だあーっ!!
ちっ!!
おう!!

のがすか!!

もうよい、甲賀と伊賀の忍法あらそい、またのきかいにせい！
町の者の見世物になることはならぬ　やめさせよ　半蔵
は！

忍法がどのようなもんかきいてはいたがこれほどのものとは
とても人間業とはおもえませぬ……
甲賀弾正
伊賀のお幻
めずらしい試合をみせてくれた

族のなか
ではいち
ばん手軽
なもので
ござる
なんと!
将監の術
を手軽と
いうか!!
うむ……
となりどう
しでありな
がら敵と
してにく

おお
四百年の
昔からじゃ

われらとて
おなじこと
ただ服部半蔵
どのにきつく
あらそいをと
められている
ため たたか
わずにいるま
でのこと

どうじゃ 徳川の世継をきめるため国千代方竹千代方にわかれ殺しあってみぬか！

服部どののおゆるしさえあればいつなりと!!

おう
服部
どの！
ゆるす
ゆるす
甲賀伊賀
たたかうこ
とをゆ
るすぞ

いまだかつてこれほどすばらしい忍法あらそいがあろうか……よろこんで死ぬがよい!!

くくく
うれしいぞ
服部どのの
ゆるしが
でたとは
ほほ
おもしろい
なんの
甲賀の
へらへら
忍法！
では弾正
あらそい
にくわわ
る十人の
名をかく
かよい

甲賀組十人衆
甲賀弾正
甲賀弦之介
地虫
将監
刑部
丈助
如月
豹馬
陽炎
お胡夷

伊賀組十人衆
伊賀お幻
伊賀朧
夜叉丸
蝋斎
天膳
雨夜
小四郎
念鬼
螢火
朱まむし

服部半蔵とのちかいはとかれた
甲賀十人衆 伊賀十人衆 たがい
にたたかいて殺すべし のこれ
るものこの人別帳をたずさえ駿
府城へまかり出すべきこと
勝たば一族千年の栄禄あらん

慶長十九年四月　徳川家康

甲賀 伊賀 どちらが 国千代に つくか!
竹千代に つくか!
それっ!!

国千代さまには甲賀弾正どのの血判がおされております
竹千代さまには伊賀お幻どのの血判でござる
きまったり

国千代方には甲賀十人衆
竹千代方には伊賀十人衆
三代将軍はどちらがなるか　そのほうたちの忍法の勝敗にかかっておる
ニヤリ
ニヤリ
ちからいっぱいたたかうがよい！

針(はり)

いそげ!!
いっこくも
はやくこの
人別帳を甲
賀にとどけ
ねばならぬ
!!

ぐぐ
うれしいぞ
伊賀とたた
かえる日が
またこよう
とは
ぐぐぐ

む……

なっ ないっ！

人別帳が……ない!!

城をでるときたしかにおれのふところにあった……

どこだ人別帳はどこにいった!!

はっ！

も、もしやすりとられたのでは……

うかつ!!
なんという
しっぱい!!

いかん
おれがこうしているまに
将監は甲賀につく!!

甲賀組だけが殺すべき伊賀十人衆の名をしってしまうのだ

このことをお紋さまにしらせねば!!

くそ!!

たあ!!

お幻婆
おかしな
話になり
おったな

敵としてにくしみあって
いたそなたと
わたしの家
がそれぞ
れ孫の恋
にひかさ
れてな
かなおり
しようと
していたとき
にの……

ふびんや……
しゅせん星がちごうた

婆！やるか!!
おお！たたかわいでかよ!!
婆！おぬし甲賀十人衆をよくしるまいな
しっておるのもしらぬのもある ほほなにが甲賀忍法なぞ!!
われらが伊賀組十人は……
九人であろう？
ぐぐぐ……

お幻婆 これ
はさっき夜
叉丸がもっ
ていったは
すのものじ
やが このと
おりわしの
ふところ
にある

おまえの
名はけした
やがておい
おとす九人
の伊賀衆
を地獄で
まて

南無!!
ぎゃーっ!!

お幻婆……
……忍法のおきて…はこういうものじゃ
ふふ……殺さねばならぬ敵じゃがこれもむかしおれの恋うた女せめて水に流してやろうかい…

しまった!! お幻のあのさけびは鷹をよんだな!!

ふ……
甲賀弾正は
死んだ
いけい！
伊賀へ

人鞠(ひとまり)・人章魚(ひとだこ)

弦之介さま

弦之介さま……
ござる?
朧どのにあいにゆくのだ……

へへこれはこれはえへへへへ
ピシャ
たわけめ!!

丈助!!
へ?

おじいさんがどのような用で駿府城へまいられたかしっているか?

しりませぬ伊賀のお幻さまも服部半蔵とのにまねかれいかれたそうでござるが

胸さわぎがする 月をみているうちにふっと恐ろしい影が胸にさしたのだ

で、伊賀のほうになにかしらせがありはせぬかと朧どののところにいくきになったのだ

大助 おまえはこれをどう考える？

おそらく弦之介さまと朧さまのなかをきいた服部どのが両家のうらみははれたものとみなし そろって世にでよとのおすすめだろうとおもいますがな

そうなればおまえうれしいか？
……
……

……
……

正直なところあんまりうれしくはござらん

おこらずにきいてくだされ これはおればかりではない みんなも大不服です

われわれはいつかお幻婆一党をたたきつけたい！われらが忍法にはとてもかなわぬとおもいしらせてやりたい！

お!!!
そ、そ…
おれをにた
みなさるな
お前さまの
目にはとう
ていかなわ
ぬ

おれはな
おまえ…を
ばかだと
おもう!!

これほど
恐ろしい忍
法をつかう
甲賀者伊賀
者がたがい
にしばりあって
この山の
なかにかく
れすむこと
はないのだ

おれは考え
た伊賀の
と力を
あわせ世
にでようか
と

しかし
てもあの娘
を敵とする
ことはでき
ぬとおもっ
た

たからじゃ
なにとでもぬかせ!!

つさいむだであったとか

しかしおれ
たいになるようなきがするふしぎでござる

だから
こわいと
もうすの
で……
われら一族がきえうせては一大事

弦之介さま
ここでひとつおもいなおしてくださいませぬかな？

見ろ！
へ？

文助！とらえよ!!
はっ!!

スル!!

おっと!
どっこい!!

それをこちらへもらおうか
おう こ丸 は伊賀の蝦蟇老人では!!

それをこちらへわたしてもらおう
へへへへしばらくで……いやなになんでもござんせんハハ
いまおまえお手裏剣をなげた鷹はお紋さまのものだ
な、なんだと
ばつはいずれあたえるとしてまずそれをこちらにわたすのじゃな
えへへへそうとしったらちょいとなかをみたくなった
文助！あいてをみてものをいえよ

わたさぬとはいわんだがな
おまえさまの忍法がどのようなもんかみせてくれたらわたしてもいい

わしの秘術をしったときは きさまの死ぬときじゃ

へへへ
かまわん甲賀伊賀どちらがつよいか
おれが勝ったらこれをいただく

ほ！
これは

へへ
すこし
ばかり
こたえ
たぞ
しゃっ!!

あっ!!

ば
ばけもの
じじい!!

ふふ このおっちょこちょいが
あっ!!
な、なんというやつ……
え、へ おたがいにおかしなからだをもっているなあ

いや おもしろかったな そなたはやくそうごおり これは おれかもふっていこう

鷹（たか）

おかしいな
かけおりていきましたが……はて？

なに!!
わたしも
おなじ
不安から
伊賀へい
ところで
あった

ま!

……
……
お！…
お！…

螺奈お
しら…
いや
わたしに
ついてき
た丈助の
こえです

のんきな
やつだ!
さきほど巻
物をうばっ
た鷹をしれ
ていたので
おわせたの
たか

鷹!!

もしかすると
お淡さ
まのつか
いではあ
るまい
!

なに
お淡さ
まが!!

そうか
螺奈はそ
れをおっ
ていった
のだ!

おーい 弦之助さまあーっ
太助！ 鷹は

へへ しっておる しっておる これは お父さまからおいられてきたもの へーへへ

おっ!!

でもな をしてやったしょうぶにいただいてまいった えへへへ みなさん ざんねーんでした

ばかもの!!

お婆さまからきたものならば伊賀衆のもの朧どのはやくみなさい
はい
まった!!
その巻物弦之助さまのまえでひらいてはなりませぬ!
赤まむしなぜです!
甲賀と伊賀まだなかなおりしたわけではありませぬぞ
お婆さまよりの巻物甲賀衆にみられたとあってはるすをあずかるわれらのせきにんがはたせませぬ!
もっとまだ……
………

そんなことより伊賀のものどものぶさほうゆるしてやってください

いやいや
四百年にわたってにくしみあっている両家だ
むりもない……

よいか
朧どの
われわれが
、さりと
なろう
甲賀伊賀
をむすぶ
きれいな
されりに
!!
はい
弦之助さま!

念鬼!
婆さまはなんといってこられたの?

ニヤリ

まあ
やっぱり!!
それはよかった!!

ふふふ
めでたいことでござる

弦之助さま みなもああもう ます いらしてください ほかのものにもあってやってください
うむ まいろう 伊賀衆の
そ、それはいけませぬ!! 敵のまっただなかですぞ!!
なにをいう もともと伊賀へいくつもりででてきたのだ
いけませぬ! こんどはわしのほうで胸さわぎが……
ふふふ しんぱいならおぬしもくるがよい
そうなされ いっしょに花見の酒をのもう!

よし!! まいろう たが そのまえに巻物をみせてくれ でなければ伊賀へはいかぬ!
う……
わかった! みせてもよい だがな丈助どの この巻物をとるために忍法くらべに勝ったといわれしたな
へへ くやしかろうが そのとおり
もう一度忍法くらべをして こっちがまけたら巻物をみせるが
それはならぬ!! もうあらそいはよすかよい 巻物なぞみなくてもよいのだ

で、
あいては
だれだ

※元本にもセリフ抜けがあり。

む!!
どうした
ことだ……
殺気があ
る!
おそろし
い殺気だ
これが
あそびか
……!?

わっ!!

むむむ……
ゴロゴロッ

ピュッ

あ・……
む！
えっへへへへ
くそ！
見よ!!

ううっ
これは血だ! 血の霧だぁ!!
おう!
毛穴から血をふくとは!!
勝負!!
うわぁ!!

うわーっ!!
ま、まいった!! たすけてくれーっ
ふふふ……

伊賀の国は美しいなあ
はい それにとてもすみよいところ
へへへへ よほどすみよいとみえて そこに にしきな鳥がとまっておる

かん!
あっ!
文助!!
たわけ!! まだそのよーなことをするか!!

左金太!!

ぎやっ!!

でも 蛍之助さま を敵とする ものはゆ るせぬの です
おそろしい… 目が…… …蛍さまの 目は……
だが 蛍之助さまの眼が 忍法もおそろしい あの …んが敵として にらみあったら… どちらが 勝つか……
しかし そんなことはおこるまい…平和がきたのだ やれやれ…

美しいけしきだ……だがここにすむ人間のなんとたたかいのおおいことか……

甲賀と伊賀それぞれ勝つために四百年のあいだ
不思議な忍術をそだててきた

そのためまともな人間がすくないとはなんとおそろしいことでしょう

そうだ！これからはわれわれ二人で力をあわせ、そんなことをなくするのだ！
はい、

地虫

お幻さま よりの 巻物とは これか

うむ…… お幻さまは 死なれた

そして 甲賀弾正 も死んだ な

まかし伊賀へおび

弦之介

それにも

弦之介を
料理する

おもしろい うれしいぞ 甲賀のやつらに血あわをふかせてやるときがきた ふっふふふ

だが気になることがある

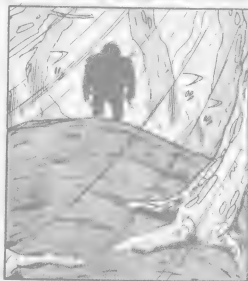
弾正もおなじ巻物を将監にもたせ甲賀におくったことであろう

そこじゃ 巻物を甲賀の手にいれさせてはならぬ 将監をまちぶせし うばいとるのだ!!

よし!! おれが……
いいや! おれが!!

まて!!
雨夜だけは伊賀へもどれ

なぜ!!?
弦之介を見はり朧さまをうまくだますのだ

弦之介は殺れれば殺ってもかまいませぬな
ふふふ それはかまわぬ だがむりをするなよ しくじればぶちこわしだ

忍者のあらそいはただ勝つこと……敵をまちがいなくたおすこと…これがなによりだいじだいざいこう!!

む！あれを見よ!!

ピタリ

見たか!
あれは たしかに

うう……
ウワワワ
ムムム

でろ!!
地虫!!

ズルズル

地虫！
でる足が
おれは
はしいの
じゃが

あっ！
こ、
これが
地虫の
正体!!
は、
はじめて
見たぞ
こ、このすかたで
…………
これでも
忍者か…

ははは!
わるい星が
せまってお

わっはは ははは なんじの 星占い あたった り!!

こうして るまに将監
事!! おまえたち四人はさきにいけ!!

ばかな! このような だるま男 はだけはあるからもうすこしものをきいておく

地虫！
甲賀一族の
つかう忍法
にはよくわ
からぬもの
がある
おまえも
その一人
まず
きこう！
おまえの仲
間に如月と
いう男がい
るなんとも
見ても顔が
わからぬ
おとこ
……

鞍馬という
めくらが、
そやつは
どのような
忍法をつ
かうか?
……
いわぬ
か!!
ふ!
それが
こたえか
!! 地虫!
きさまの
星をうら
なえ!!

こたえねば
おなじところの
皮と肉を
さく!!
あっ!!
う
鱗か!!
ふふ
占う!
なんじの
星を!!
なんじの
星は
凶とでた
!!

ゴクゴク

このことをあいてにしられておれば おれも百年目じゃが、しったときはあいてが百年目じゃ
ゴクリ

ふっふふ つめたくなってきたわい

さて！こうしてはおられぬ やつらがこのようなうごきにでるとはいよいよもって運正さまと将監かきにかかる!!

妖蛾(ようが)の術(じゅつ)

まて!!
おっ?

やつ
将監だ!!
殺れ!!

む！

しえっ
!!
ギュ――ン

それを
ておる？

うっ!!

うーむ!!
なにい!!
くそっ!!
ああ!

い、いかん!! きれぬ!!
ふかく!!
ぐぐぐ あばれるがよい！ あばれればあばれるだけくも糸はからみつく！
くくく!!

ぐぐぐ伊賀あぶ三匹甲賀のみやげに命をもらう!
お!

うわあ!!
蛾だ
ありがたい!
蛍火の妖蛾の術!!

ほほほ
この蛾粉がくも糸につけば ただの糸にかえてしまう見よ!!
ぐぐぐ
ま、まずい!!
ぐわっ!!

く、ぐぐ……
わっはは伊賀のかちじゃ巻物をわたせ！
お！……

ち！
なげやがった!!
ああっ!!

や、やつだ 地虫だ!!
ない！巻物をさらわれた!!
くそー！にがすな!!

し、しんじ
られん！
転起のな
いやつに
おいつけ
ぬとは
！

ど、
どこへ
うせた
!?

ニヤッ

む！

う！

ふっふふ
地虫！口にくわえた
巻物をはなせ！

う
うう……
はなさなければねじれ矢がだせぬではないかふっふっふ
ふ！二度おなじ手はきかぬ！
ぐわっ!!

や！

こやつ手をかけおったわ

ところで将監はどうした
はい わたしがとどめをさしてきました
よし! 地虫将監この二人は人別帳からきえおったふっふふ
地虫のもっていたこの人別帳はもしてしまえ!
ふふふ これで甲賀どもに人別帳の秘密がもれる心配はないわ!!

秘境伊賀甲賀の里に、死を賭けて争う宿命の忍者たち。最後に笑う者ははたして伊賀か？甲賀か？秘術をつくして物語は第二部に展開して行きます。第二部を御期待ください。

甲賀忍法帖

第一部　完

長篇時代漫画

甲賀忍法帖

原作　山田風太郎

企画　東邦プロダクション

構成
並画　小山春夫

時代長篇漫画
甲賀忍法帖
第二部
原作　山田風太郎
構成　東邦プロダクション
画　小山春夫

前巻までのあらすじ

おたがいに美しい心と心で恋しあう甲賀の弦之介と伊賀の朧は、四百年の昔からみにくいあらそいをつづけてきた甲賀と伊賀を、二人の力で平和な国にしようと誓いあうのであった。
しかし運命のひにくは徳川家の世継ぎあらそいから、二人のしらぬまにふたたび甲賀、伊賀をおそろしい殺しあいの渦にまきこんでいったのでした。
そして、はやくも一族の頭領弾正とお幻は、あい討ちで倒れ、甲賀十人衆のうち将監と地虫は、伊賀十人衆の天膳らの手にかかって死んだ。

甲賀忍法帖で活躍する人々……
甲賀十人衆
弦之介
弾正
如月
丈助
陽炎
豹馬
お胡夷
刑部
十兵衛
将監
伊賀十人衆
お幻
朧
天膳
蝋斎
雨夜
念鬼
夜叉丸
蛍火
赤まむし
小四郎

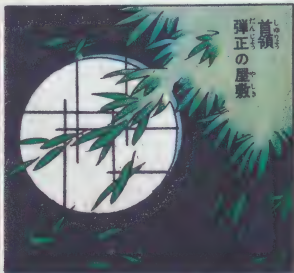
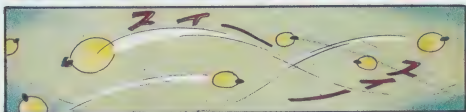
甲賀の里

スイー
スイー

首領弾正の屋敷
ジジ…

どうも気にかかる地虫の星占が……
悪い星じゃ凶とでた

江戸へいかれた弾正さまの身になにかおこらねばよいが……胸さわぎがする

それに弦之介さまのことも……
まったくどこへいかれたかと思っていれば伊賀からつかいがきて丈助きておられるゆえあんしんされよとぬかしてかえりおった

なんということじゃ この甲賀と伊賀とは 四百年からの敵どうし そのまっただなかへいかれるとは あきれはてたことじゃ

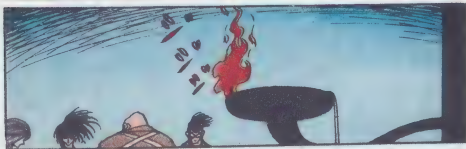
ほんに弦之介さまは それほど伊賀の娘朧とやらにあいたいのか!!

おれが伊賀へようすを見にいってもよい

いやいましがた妹をやってみた
ほ!お胡夷が伊賀へいったか

うむ 子供ならばむこうも気をゆるそう したとえ弦之介さまに見つかってもしかられはすまい

それではとにかくお胡夷のかえるのをまとう

はて!!

なんだ豹馬
何者かがこの甲賀の里にはいってくるそれも忍者の足だ

お！弾正さまのおかえりではないか
ちがう!!味方ではない!!

ちかづいてくるのは五人!!足どりに殺気がある!!

よし!!みんなにこのことをしらせろ里をかためるのだ!!
スック
スック

だが合図するまですがたをかくせ!!声もたてるな!!

ふ！まずおれがしらべてやろう
ニヤリ

ピクリ

しずかなものじゃよく眠っておる

ふっふふいまこそ甲賀のやつらに血あわをふかせるときがきたのだふっふふ

甲賀より十人
伊賀より十人
が　たがいに
殺しあい　どち
らが生きのこ
るかでつぎ
の将軍を
きめるそ
うじゃが
………

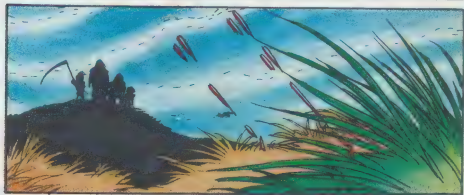
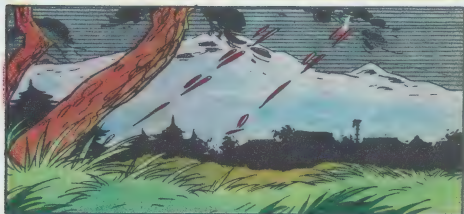
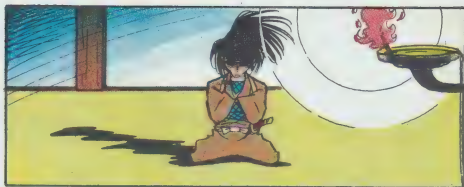
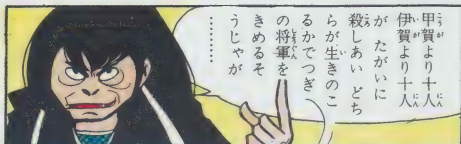
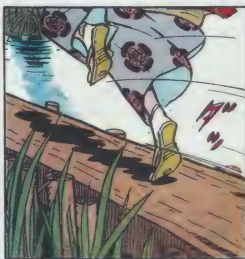
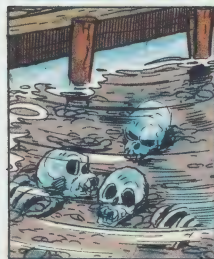
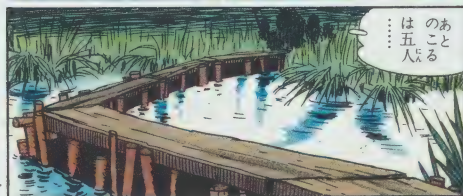
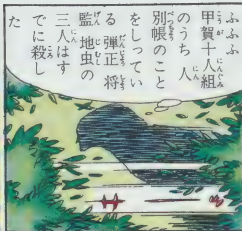
ふふふ
そんなこと
はどうでも
よい！
われらにと
って血ぶる
いするほど
うれしいの
は　甲賀と
たたかえる
日がまたき
たことじゃ

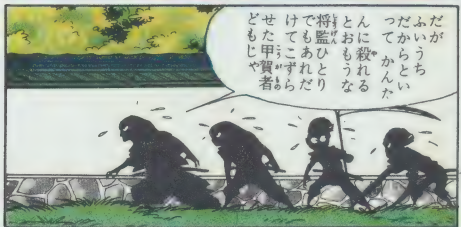
くくく
甲賀の
やつらは
このこと
をしらぬ

殺しあう
二十人の
名をかい
た人別帳
は　われら
の手にあ
るのじゃ
からな

ふふふ
甲賀十人組のうち人別帳のことをしっている弾正将監地虫の三人はすでに殺した

弦之助と丈助はうまくだまして伊賀の里へつれこんである

あとのこるは五人……

こわがるな
みはりのすがたはない
気づかれてはおらぬ…

!!

だが
ふいうちだからといってかんたんに殺れるとおもうな
将監ひとりでもあれだけてこずらせた甲賀者どもじゃ

む!

う—む……
天膳どのなにか?

われわれのほかにだれかそばにいる!!

だれもおらぬぞ
ふむ気のまよいであったか

あっ
!!

どうした!!蝋斎!!

か、壁がわしの刀の鞘をつ、つかんでおる!!
な、なに!!

わっ!!

ば、ばけものくらえ!!

うおっ………
ムクムクッ
や!!
壁が!!

か、壁がわしの耳もとで甲賀の壁には耳があるぞとぬかしおった

ふふふ そのとおりだ目も口もある! ふっふふ

であえ!! 曲者が甲賀の里にはいったぞ!!

ムクムク

ゴロ

くそ!!
かえって
わなに
おちこん
だ!!
おちつけ!!
小四郎
まって
くれ!!
甲賀の
衆

われらは曲者ではない!! 甲賀弦之介さまのおいいつけにより伊賀からまいった使いのものだ!!
うそをつけ!! きさまらのひそひそ話をきいたぞ!!
もっとくわしくきかしてもらうかふふふ

ちっ!! これまでだ!! にげるのにすこし骨がおれるぞ!!

なんの甲賀者ごときに!!

ぎゃっ!!

ぐわあっ!!

な なにが おこった のだ!!
わからぬ!! だが おかしな術を つかうぞ きをつけろ!!

カまわぬ!!
かかれ!!

いまだ!!
いけ!!

シュー
シュ

い、いかん!!
ムク ムク

ひるむな!! おそれるな 甲賀忍者の名にかけて やつらをのがすな!!

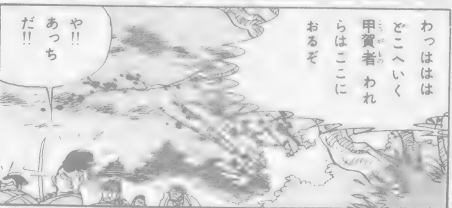
オオーッ

くそ!!

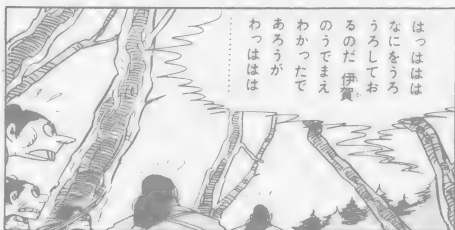
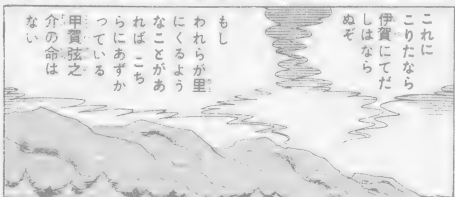
おう!!

や！これは……
ほーほほほ みたか!! わたしの 胡蝶の 術!!
ありがたい

あっ!!

やられた!! みス!!
やつらの姿がない!!
くそ!! 蝶の竜巻にまぎれてにげおったぞ!!
追え!!
わっはははどこへいく甲賀者 われらはここにおるぞ
や!! あっちだ!!

それ!!
にがすな!!

わっはははは
甲賀のばか者ども 耳はどこについておる
こっちだ
こっちだ

くそ!!
むこうだ!!
いや
こっちだ!!

はっはははは なにをうろうろしておるのだ 伊賀のうでまえわかったであろうが わっはははは……

これにこりたなら伊賀にてだしはならぬぞ
もし われらが里にくるようなことがあれば こちらにあずかっている甲賀弦之介の命はない

うう……弦之介さま………

お胡夷（こい）

ち!!
いまのたたかい
勝ったとは
殺ることができなかったではないか!!

そうだ
やつから
殺る!!

よいか!!
弦之介を殺ろうと術をしかけたものは
やつの目を見たとたん術は自分にはねかえってくるのだ

敵ながらおそろしい瞳の忍法じゃ……
おぼえておけ!

ふむ
おそろしい術だ…
なーに
やつの目を
みなければ
それでよか
ろう
そうは
いかぬ
見まいと
しても弦之
介の目に
ひきこま
れてしま
うのだ

お！
あれは

ふむ
甲賀の娘
お胡夷だ
よし!
かくれろ
ひっとらえるのだ!!

キャッ

ふふふ
こわがることはない
甲賀のお胡夷

もはや
われらは
敵ではない
けんに甲賀
弦之介さ
まをあそ
びにきて
おらるる
ほどじゃ

ほんとに
弦之介さ
まはごぶ
じなの？
わっはは
なにをば
かなこと
をいう
そのような
ことをうた
がうなら
どうじゃ
われらと伊
賀へきてよ
うすを見る
がよい

おお
そうじゃ
そうする
がよい
ン
……

さあまいろう

あは！仲間にきいてからね!!
ピョ〜ン

くそ!!きづきおったわ!!

おれにまかせろ

ああーっ!!

あっ!!
ブラーリ

きゃーっ!!
ひっ.!!

まて!! 殺すな 念鬼!!

なにを いまさら……
こやつも 人別帳に のっていた ひとりだ 殺さねばならぬ!!

ふふふ あわてる ことはない 弦之介を討つためのおとりにつかうのじゃ 殺すのは そのあとで よかろう

ききたい ことも あるしな ふっふふ

人(ひと)なめくじ

うむ 月も美しいが伊賀の里も甲賀におとらずよいところだ
はい! それはもう弦之介さま
だが そこにすんでいる者達は……
四百年の昔から たがいににくしみあい 殺しいうことばかり考えている
このままでは 甲賀伊賀ともにほろびるばかりだ
ふたつの国が手をとりあえば ひろい世にでることもできる
いつまでも山のなかにかくれすむこともないのだ

わたしがこうしてここへきたのも 伊賀の衆にきいてもらいたかったからだ

弦之介さま!! わたくしたち二人で力をあわせればきっとみんなもわかってくれましょう

そうだ!! 朧どの われらがくさりとなろう 伊賀甲賀をむすぶくれいなくさりに
はい!! 弦之介さま!!

やはりここへきてよかったとおもう
夜もふけたもうやすまれるがよい
はい
ピクッ
弦ノ介さまと力をあわせれはこの里にも平和がくる……
ほんとにすばらしいこと……

はて？
あれは
……

塩蔵からつづいている……
わかりました雨夜ですね!!
ごらん!!わたしの目を!!

うう…
ううう
……
雨夜(あまよ)…
おまえ
は!!

なにをしようとしていたのじゃ？
弦之介さまを殺そうとしたのではないか？
ううう………

よいか 雨夜！
たとえ 伊賀者でも だいじな 弦之介さまに 害をくわえよ うとするなら ば わたしが ゆるしませぬ !!

弦之介さまの 敵はわたしの 敵じゃ !!
うう…… 水…… 水……

水が ほしいか 塩にからだをといた おまえに 水をやらぬ は死ぬほど のくるしみ であろう

罰じゃ!! しばらくそうしておるがよい!!

水……
………
水……
ううう

丈助の死

しんぱいじゃ ふむ……どうかんがえてもしんぱいじゃやな
ここは敵のまっただなか
弦之介さまの身にもしものことがあってはついてきたわしのせきにん
どれ弦之介さまのようすを見てこようかい
うっ!!
あかぬあかぬぞ!!

唐紙とおもっていたがこいつは板戸だ
やっぱりとじこめやがったなあ

両側は壁……

へへするとにげだすところはあそこだけか

ガラッ

なるほどおれは牢獄にねかされていたわけだな

えっへへ だが この丈助をこんなところにとじこめたつもりでいる伊賀のおたんちんめ!!
へへ みておれ!!
へへ

おれのからだはマリのようにできているんでなへへへわるいねえ

ふーむ
なるほど
……ここにいるとふかい谷間にいるような気になるが……

十歩もあるけば……

山のてっぺんにいるような気になってしまう

さすがは伊賀忍者の砦じゃ 人の目をごまかすようにできているわい

ここまできたからにはついでにオシッコでもしてやるか
へへ ざまあみろい

さあて
こうしてもいられん
弦之介さまはどのへんにおられるかな
ギク
あや
?
パ

な、なんだあこりゃ……

うう……
水……

ふーむ……こ
こいつは雨夜だなあ……
いったいどうなってんだ
ええ？

まてよ……

ふむ
塩だな
……
きさまの
忍法はから
だに塩をか
け水分をと
って小さく
なるという
わけか

ちぇっ!!
なめくじみ
たいなやろ
うだき
しょくの
わるい…
だが
なぜ忍法
を……

そうか!!
こいつの
ねらいは
弦之介
さま!!

おい!!
雨夜!!
きさま小さ
くなって
弦之介さま
のところに
しのびこむ
つもりであ
ったな!!
うう
……
水……
水をくれ

なぜだ
なぜ
そのよう
なことを
する!!

ふむ わかった!! お幻さまの鴨かつかんていた巻物になにかあったのだな
おい!! あれになにがかいてあったのだ!!
いえ!!
水……水……
よし!! 水か
ダッ

それ！ 水はそこにある！
水！！
巻物にはなにがかかれてあったのだ！！ こたえろ
水はそれからだ！！

うう……あの巻物には……甲賀伊賀たがいに殺しあうことがゆるされ…
両方から十人ずつの忍者をえらびだしおのおの勝つか忍法あらそい…
ブル ブル ブル
ドド
な、なに!!
そ、その十人とはだれだ!!
甲賀は弾正 弦之介 お胡夷 丈助…
わかった 甲賀だより伊賀十人の名は!
水……水をくれ!!
おれの問に答えればたっぷり水はやる!! いえ!!

ムクムクムク
うむ
それから
!!
ニタリ
このおれだ
!!
くそ!!
滝しぶきをあびて
正気になっていたか
!!

ドドーン!!
ああーっ!!
ワ

おっ!!
いつのまにかおれの刀を…

ドドドド
ブクッ

ぬかった
な丈助!!
わっはは
ははは
ドドドド
ドドド
ブ

はやくもこの忍法あらそいにおいて 甲賀方は四人討たれた!!

のこるは六人!!

伊賀の屋敷の奥ふかくねむる甲賀弦之介よ なにを夢みているのか!!

面うつし

ダーッ
ダーッ

みんなきけ!! 伊賀のやつらにこの甲賀の里をあらされたとあってはわれらのはじだ!!
ワァイワァイ
カッ

そうだ!! いまこそ甲賀忍法のおそろーしさおもいしらせるときじゃぞ!!
やつらをたたきのめせ!! みなごろしだ!!

いけ!!
しかえしだ!!
おう!!
おしかけろ いまこそ四百年のうらみをはらそうぞ!!
まて!!

なんだ!!
なんだ豹馬!!
いまさらとめだてするのか!!

おちつけはやまってはならぬ伊賀の里には弦之助さまがおられるのだぞ

あ……

……弦之介さま……

ダラ

このようなときなぜ弦之介さまは伊賀の里なぞにいかれたのじゃ………

しかしわれらがみな死のうと弦之介さまをおすくいせねばならぬ

もちろんだしかし弦之介さまがそうやすやすと伊賀者に討たれるとはおもわぬ丈助もついていることだ

それより なぜ伊賀者が甲賀をおそってきたかということだ
うむ…… 甲賀伊賀たがいに殺しあってはならぬという掟があるはずじゃ
そこだ!! ことによると その掟がとかれたのではあるまいか
なに!!
うーむ…… そういえば……

おれが壁のなかにひそんでいたとき
天膳め　おかしな言葉をぬかしおった
ほう!!

「不意討ちとて　かんたんにおもうなよ
将監ひとりでもあれだけてこずらせたではないか」
と………

む………
………

おかしい!!
将監は弾正さまについて江戸にいるはずだが

地虫はどうしたろう……
弾正さま将監に悪い星占がでたといって江戸へいったが……
やはりなにかあったのだ!
将監はそれをしらせにかえるとちゅう殺されたのではあるまいか
うむおそらく伊賀者がおそってきた秘密はそこにあるにちがいない
よし!こんどはおれが江戸へようすを見にいく!!
刑部おれもいこう!!

む!!
血(ち)のにおい!!

将監はこんなところで殺られたか！

おのれ伊賀者!!

刑部!!地虫も殺られているぞ!!
なに！地虫もか

ひと太刀で
切られて
おったわ
…………
このようすでは
弾正さまも
生きてはおられまい…

あれは
伊賀の
夜叉丸
!!

しめた!!
おれに
まかせろ
ドロを
はかせて
やる!!

くそ!!おれとしたことが将監に人別帳をうばわれるとは!!

こうしているまにやつは甲賀へ人別帳をとどける

伊賀の仲間よ!!ぶじであってくれ!!

将監はすでに殺され人別帳は味方の手にあることを夜叉丸は知らぬ!!

怒りのかたまりとなって伊賀へ伊賀へと夜叉丸はかける!!

おおおーい

おおーい!!
夜叉丸!!
おっ!!
その声は!!
うむ
わしじゃ
天膳
おお
やはり
天膳どの
で、どこに
おられる?
わけあって
いま
姿はみせられぬ…
や!!
それでは
……
あなたは
殺されて
いるのでは
ありませぬ
か?

う……
!?

あなたを殺したのは甲賀の将監ではありませぬか!
うむ……
……そ、そうだ

もうしわけありませぬ!
おれが将監に人別帳をうばわれたばかりに……

もっとも殺されたのがあなたでよかったが…

まてまて夜叉丸人別帳とはなんだ?

天膳どの
甲賀と
伊賀が
たたかう
ことを
ゆるされ
ましたぞ

なに!!
さては
!!

あっ
!!

きさま
天膳どの
ではない
な!!
声が
かわった
!!

しま
った
みやぶら
れたか!

くらえ!!
ぐわっ!!

うぬ きさまは 甲賀の 如月!
ふ!! 人のこわいろをつかうのがきさまの術とみた!!
ぐぐぐ……

ふふふ きさまの
かえりのみやげに命をいただく

ああーっ!!
ぐぐぐ……

ムクムクムク

ムクムクムク

ふふふ
あぶな
かったな
す、
すまぬ
おどろいた
あまり天膳(てんぜん)
の声(こえ)をわす
れた

だが
こやつ
たいへん
なことを
ぬかしお
ったぞ
甲賀(こうが)と
伊賀(いが) たた
かうことが
ゆるされた
と……

人別帳は
将監にいっぱ
わたしたといっ
たが 将監は
殺られて
いる

人別帳は
伊賀者の
手にある
はずだ

そうと
わかれば
弦之介さま
の身があぶ
ない!!
いこう
伊賀の
里へ!!

よし
おれは
こやつの
顔を
かりる

よし！
きれいに
とれた

ふっふふ
できた

どうだ
!!
おお!
いつみて
もみごと
なものだ、

声といい
顔といい
まちがいなく伊賀の夜叉丸!!
はっはは
ははは

さあ
いそごう
弦之介さまをすくいに伊賀へはいれるものはまずおぬしとおれだけであろう

このとき人別帳に気をとられたふたりは 夜叉丸が口にした奇怪なことばを思いだすひまはなかった

それは
「天膳どの
あなたは殺
されている
のではあり
ませぬか」
と

死人に
話しか
けるその
ぶきみな
ことば…
……ああ
その意味を
二人がしっ
たなら…

吸血鬼

ガラリ
お胡夷
きくことがある

生命がおしければこたえよ

これじゃこの人別帳にのった甲賀組がつかう忍法がしりたい

まずおまえの忍法からきこう

いわぬか!!
ならばおまえの兄如月の顔は?やつの顔はどうしてもおぼえられぬ

うふふわたしがそれを言うとおもうの?

忍者が敵に忍法をしられたらそれでおしまいだものねふふふ
ふむ!子供とおもっておれば…

言わせずにはおかぬ!!
あーっ
こたえねばこの手をすこしずつしめる
あっ!!

ううう……こ
こやつ
吸血鬼……
ダラリ

ズル ズル

ふっふふ
みたか
わたしの
忍法……

ふむ
……
これは
!!

やっ!!
ガラッ

蝋斎!!

ダッ
ガベッ

うう
きさま
きさまは
!!
う…
あ…
あああ

あ……
……
……
う
こやつ…
この顔で
人の血を
すうとは
………

念鬼
!!

おお！夜叉丸
いつかえったのだ．？
いま……

ここまできたときひめいがきこえたのでな
うむ蠟斎は殺られおれもすんでのところであぶなかったわ

ふ！
こんな甲賀の小娘にか
ところで夜叉丸江戸でなにがあったのじゃ？
朧さまにあってから話そう……つかれた
お胡夷わかるかおれだおまえの兄如月だ
ピクッ
兄さん人別帳は……あたしのうしろ…俵の下…
お胡夷……!!
ガクッ

…………
…………
はて
おかしい
人別帳が
みあたらぬ

たしか
蠟斎老が
もっていた
はずじゃ
ない！
ない！

甲賀の小娘はこの塩蔵にとらえてあります
なぜですなんというこうことをするのか!!
わけは人別帳をおみせしながらお話しいたします
人別帳?……
や!!
まあ!!
天膳!こ、これは…この娘は…蝋斎は…死んでいる……

どうしたのです!!おまえ達はなにをかくしているのじゃ！

朧さま夜叉丸が江戸よりもどりましたぞ

おお!!夜叉丸!!いつもどりました

さあ話しておくれ！お幻婆さまはどうされたのじゃ いったいなにがあったのです

ううう
………

夜叉丸!! なぜだまっているのです!!

うう……
や！こやつの顔がくずれてきた
……夜叉丸ではない 甲賀者だぞ!!

みごとにばけおったが 朧さまの瞳にみられては きさまの忍法もやくたたずじゃわ！
おお!! こやつが人別帖をもっておるぞ!!

時代長篇漫画

甲賀忍法帖

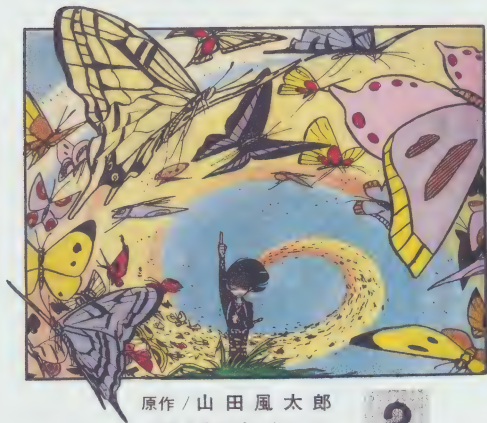
企画　東邦プロダクション

構成並　小山春夫

原作　山田風太郎

3

時代長篇漫画

甲賀忍法帖

原作／山田風太郎
企画／東邦プロダクション
画／小山春夫

3

伊賀十人衆

お幻　朧

念鬼　天膳

赤まむし　雨夜

小四郎　螢火

蠟斎　夜叉丸

甲賀忍法帖第三部で活躍する人々

前巻までのあらすじ

美しい心と心で恋しあう甲賀の弦之介と伊賀の朧は、四百年の昔からみにくいあらそいをつづけてきた甲賀と伊賀を、二人の力で平和な国にしようと誓いあうのでした。
だが、二人のしらぬまにひにくな運命は、徳川家の世継あらそいをめぐって甲賀、伊賀をふたたび恐ろしい殺しあいの渦へとまきこんでいった。
はやくも一族の頭領弾正とお幻は、あい討ちで果て、甲賀方は将監、地虫、丈助、お胡夷が死に、伊賀方も蠟斉、夜叉丸が死んだ。
伊賀の里にいる弦之介の身を案ずる如月と刑部は、伊賀の夜叉丸に化けて里にしのびこむが、朧の破幻の瞳にその化けの皮をはがされてしまった。

妖鬼瞳の術

おのれ!!
ザワ
ザワ

ニヤリ

ポーン!

あっ!!

パシ

やっ!! まだ仲間がおったか!!
ドドド

ダッ

おえ!!
甲賀に人別帳をうばわれてはならぬぞ!!

ふふふ………

壁のなかにきえていく!!

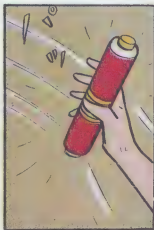
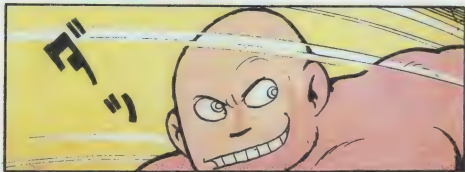
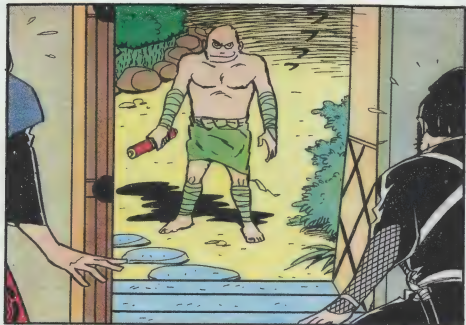
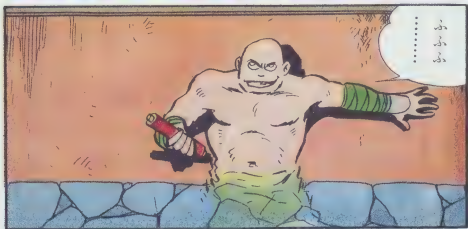
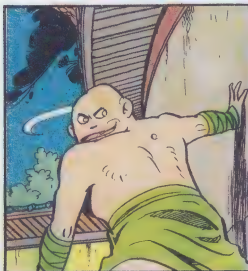
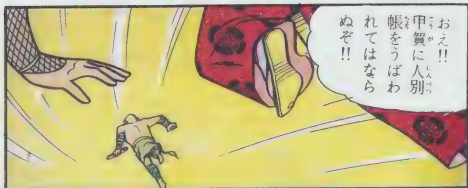
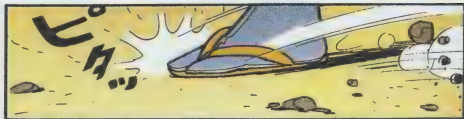
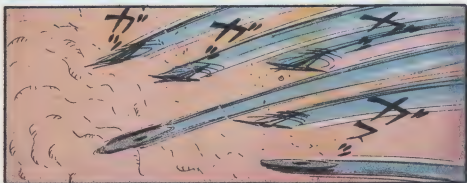
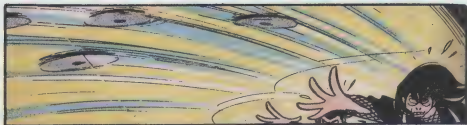
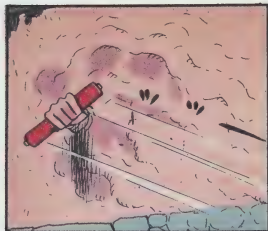
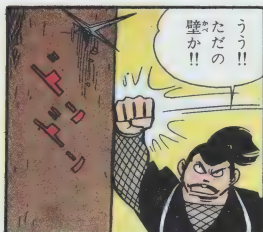
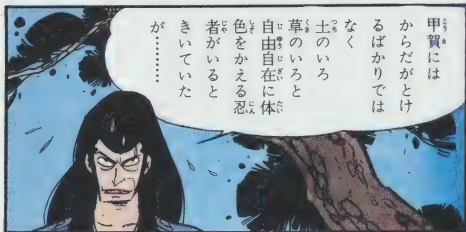
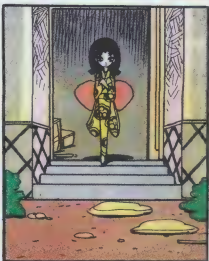
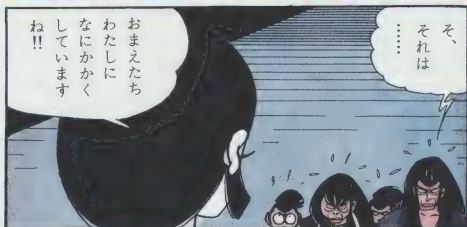
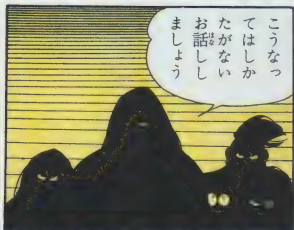
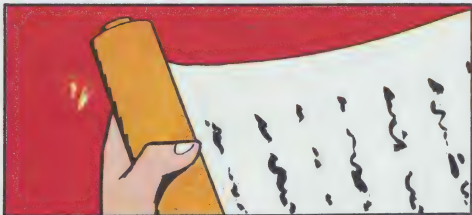
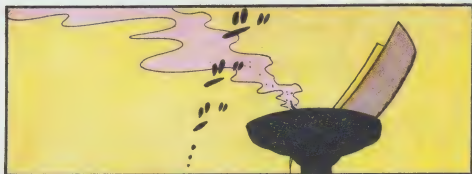
フフフフ

ば、ばけものめが!!

ひるむな
あれがやつの忍法だ!!
しとめよ!!

カッ
カッ

うう!!
ただの
壁か!!

やつは
どこだ
!!
キョロ
キョロ
人別帳は
どこへ
いった!!

甲賀にはからだがとけるばかりではなく土のいろ草のいろと自由自在に体色をかえる忍者がいるときいていたが……

ええ!?
で、ではやつがそうか!!

この草!!

この木か!!
ザク

ちっ!もうおそいわ!!

それよりも
夜叉丸にばけ
た甲賀者は
どうした!!
あっ!!

しまった!!
人別帳に
きをとられ
やつのこ
とをわす
れていた
!!
ドタドタドタ

朧姫!!
ここにいた
甲賀者は
どこへにげ
ましたか
!!

しらぬ!! わたしにはこのさわぎがなんのことかすこしもわからぬ

甲賀と伊賀のあいだになにがおこったのじゃ!!

そ、それは……
おまえたちわたしになにかかくしていますね!!

甲賀 伊賀なかよく手をつなごうと甲賀弦之介さまも この伊賀の里にきておられるのじゃ!!

それなのにおまえたちはなぜ殺しあいをはじめたのです!!
そのわけはいまうばわれた人別帳にかかれております

人別帳?人別帳とはなんです?

姫には甲賀とたたかう気持がないためいままでかくしていたが…

こうなってはしかたがないお話ししましょう

あの人別帳とは…

甲賀組十人衆　伊賀組十人衆
甲賀弾正　伊賀お幻
甲賀弦之介　伊賀　朧
地虫　夜叉丸
将監　蠟斉
刑部　天膳
丈助　雨夜
如月　小四郎
豹馬　念鬼
陽炎　螢火
お胡夷　赤まむし

服部半蔵とのちかいはとかれた
甲賀十人衆　伊賀十人衆　たがいに
たたかいて殺すべし
のこれるもの　この人別帳をたずさ
え　駿府城へまかり出ずべきこと
勝たば　一族千年の栄禄あらん
慶長十九年四月　**徳川家康**

甲賀十人衆
伊賀十人衆
たがいに
たたかいて
殺すべし…
徳川家康
……か

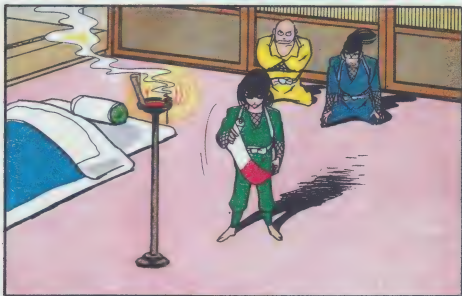
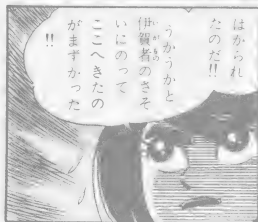
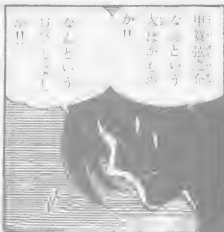
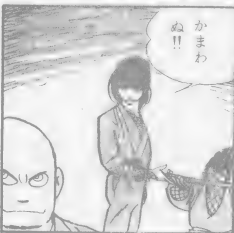
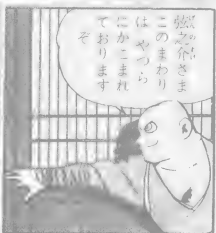
弦之介さま
われら甲賀
十人衆のう
ち五人まで
殺されまし
たぞ

……

おのれ伊賀忍者!!

おれが平和をねがってここへきておるというのになんたるやつらか!!
弦之介さま！もはや甲賀と伊賀のあいだに平和なぞありませぬ!!

四百年のあいだたまりにたまったにくしみがあるばかりですぞ

はかられたのだ!!
うかうかと伊賀者のさそいにのってここへきたのがまずかった!!

甲賀弦之介は
なんという
大ばかもの
か!!
なんという
おひとよし
か!!
このうえは
のこる伊賀者
七人を殺し
無念をはら
すばかり
です
かえろう
甲賀へ
!!
弦之介さま
このまわり
はやつら
にかこまれ
ております
ぞ
かまわ
ぬ!!

でてきた!!

おう二人ともそろっておるわい!!

殺れ!!
あ!!
いかん!!

カッ

ぎゃっ!!
ザクッ

ガクッ
ドサッ
ドッ

刑部 如月 まいれ

ニヤリ

こ、これは……ど、どうなっているんだ
あれが弦之介の瞳の忍法じゃ

やつを殺ろうとして あの目をみたとたん われをわすれ味方を切るか自分を切ってしまうのだ

おそるべき催眠術といえよう
うう……

くそ!! 伊賀の名にかけてやつらをのがしてなろうか!!

殺る!!
おお小四郎!!
小四郎の妖術!
それはおそろしいいきおいで息をすいこみ空中に真空をつくりだすのだ
この真空にふれたがさいご犠牲者の肉は鎌いたちにおそわれたように内部からはじけだす

だが
はたして
弦之介の目
に かえる
かどうか!
やつに
術をしかけ
ても 術は
自分にはね
かえってく
るのだ

そうじゃ!!
朧さまは
どこに
おられる
?

あそこだ

朧さま!!

朧さま
しっかりなされ!
弦之介はさりますぞ!!
……弦之介さま!……

よびもどさねば あのままさりますぞ!!
おお!

……弦之介さま!……
ニタッ

ピタリ

弦之介さまーっ!!

朧さま！
いってくだされ
二人のあいだに
おお！
そうでした
ただし
弦之介を見るのですぞ！
あなたの目に
見られれば、
どのような忍法
もやぶれるはず

弦之介の瞳の忍法をやぶるものはあなたの目よりほかにない
あ……

ザッ
ザッ

さあ弦之介を見てくだされ小四郎があぶない

あと
わずか
十歩…
およし
小四郎
!!
バッ
バッ
バッ
や、やめ
ておくれ
!!
姫!
おどきな
さい!!
姫!
弦之介の
目を見て
くだされ
!!

伊賀で弦之介をうてるものはあなた一人ですぞ!!
甲賀弦之介はもはや敵ですぞ姫!!
ああ……
姫！目をあけなされ!!
目を!!目を!!
味方の小四郎を見殺しになさるきか!!

シュ——

いってしまわれた… 弦之介さまは いってしまいなされた………

七夜盲の秘薬

人別帳はうばわれわが方十人のうち四人は死んだ
もはやこうなっては甲賀伊賀ぜんめつをかけてあらそうばかりでござる

くそ!!
ちかって
甲賀者ども
を血の池
地獄におい
おとしてく
れるぞ!!
勝つ!!
かならず
勝つ!!
わしには自
信がある!!

ただ
そのためには
このあらそい
のまっさきに
朧さまにたっ
ていただか
ねばならぬ

それなのに
なんぞや!!
あなたは
敵の甲賀弦之
介を討つどこ
ろかみかた
の小四郎を
みごろしに
された!!
天膳
ゆるして
おくれ!
………

かかるお心持があるならば ちかいなされ！
かならず あなたの手で燃之介をたおすと!!

わ、わたしには……燃之介さまは討てぬ……

ならぬ!! 子供のけんかではない!!
われら甲賀一族を生かすも殺すもあなたの目にかかっているのですぞ!!

な、なんでござる？
わたしも伊賀頭領の娘 天膳のいうことはよくわかる
けれどわたしは弦之介さまとはあらそえぬ……

あらそえぬ
どころか
かえって
そなたらの
術をやぶる
かもしれ
ぬ
それが
わたしは
おそろしい
……それゆえ
……わたしは
めくらとなり
ました

あっ!!

パッ

ひ、
姫!!

わたしの目はわざわいのもと……この七夜盲の秘薬をつけたので七日七夜はとじてひらかぬ

姫!!姫!!な、なんということをなされた!!

わたしをめくらにさせておくれこの世も運命もなにもかも見えないように…

ババ
ババ

天膳さま!!
天膳さま!!

なにか!!
ガラッ

こ、このようなものが門のまえに!!
なんだと?

甲賀、伊賀 なんのため
にたたかうのか 私はし
りたい そのため江戸に
いき 徳川家康 または
服部半蔵殿にそのわけ
をきくつもりだ 我々は
すでに江戸へむかって
いる なんじら人別帳が
ほしければ おそれるこ
となくおってくるがよ
かろう

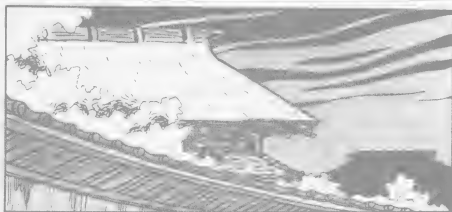
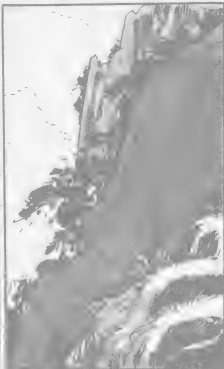
甲賀弦之介

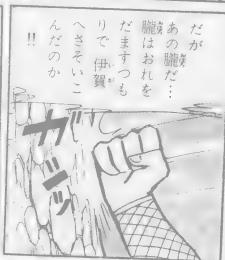
伊賀十人衆へ

甲賀のやつら 旅にでおったか!!

ふふふ 忍法の死闘の旅もまたたのしかろう

よいか!! 江戸につくまでに 人別帳と五人の命は こちらにいただかねばならぬぞ
おう!!

盲人豹馬の術

おれが平和をもとめて伊賀の里へいっているすきに五人も殺しおった!!

なんたるやつらだ!! ゆるしはせぬ!!

だが あの朧だ… 朧はおれをだますつもりで伊賀へさそいこんだのか!!

ガッ

それほど悪魔的な娘だったのか!!

しかし いまさら どうすることもできぬ

伊賀組はかれらをおってかならずくる!!
われらはそれをまつ!!

しかし 朧はくるか……もし 朧がきたならば……

どうもきになる弦之介さまはほんとにやるきがあるのか？
ほんとに朧姫を殺せるものかな？
うむ………

おれひとり ここからはなれて伊賀組をたたいてみる!!
ふむ やつらのうしろへまわるのもひとつの手だ よかろう!!
いこうか
はっ!!

刑部がおらぬがどうしたのだ？

はて？やつのからだは めあきの目にもときどきみえなくなりますのでな

めくらのわたしにはますますわかりませぬ

豹馬めとぼけているな

だがむりもないおれがあまりにも朧のことでまよいすぎているからだ……

ふふふ
甲賀組のやつらよくねこんでおるわい

ではそろそろはじめるか

それ!! 塩だ
ポイ

おう!
ヒョイ

バラバラ

ドロドロ
ドロドロ

なんたる忍者であろう!!彼はなめくじのように塩にとけるのであった!!
ドロドロ
ドロ
モゾ
モゾ
モゾ

おお見よ!!人間なめくじは音もなくはいだしたではないか!!

ほっほほ伊賀にこのような忍者がいるとはやつらもしるまい
うむ人のけはいをかんじさせず弦之介にちかづけるものはまず雨夜だけであろうな

スルスルスル
スルスル
サワ
サワ
ん……？
スヤスヤ

あっ!!

ぐわっ!!

ピュー

ああっ!!

ガバッ

弦之介さま!!

弦之介さま!! ど、どうなされました!?

……目を……目をつぶされた………

ええ!!
目、目を!!

うかつであった……
うう……こ、こやつに……
ピク、ピク
ピクピク

やったな弦之介も七夜盲になりおったぞ!

殺られた!!
このかたきはうたしてもらう!!

螢火!! 蝶をとばして目あきどもをさそいだしてくれ!

念鬼どの あぶなくは ないか?
ふ! あいてはめくらだ おそれることはない 蛍火 たのむぞ!!
きえっ!

お!!
これは!!
伊賀忍法 虫遁 胡蝶の術だ
このちかく まだ 仲間が おるぞ!!

陽炎さがせ!!
はい!

ニヤリ

よし いけ!! 螢火 あの ふたりを ぞんぶんに はしりまわらせろ!!

ふふふ
ばかめ!!
蝶につられてはしりさったわ
ふっふふ

ふ！
あとにのこるはめくら二人（ふたり）…

そこにおるのは伊賀者だな
クルリ
むっ!!

なんだ
やはり
めくらか
うふふふ
やつの目さえひらかねば おそれることはない

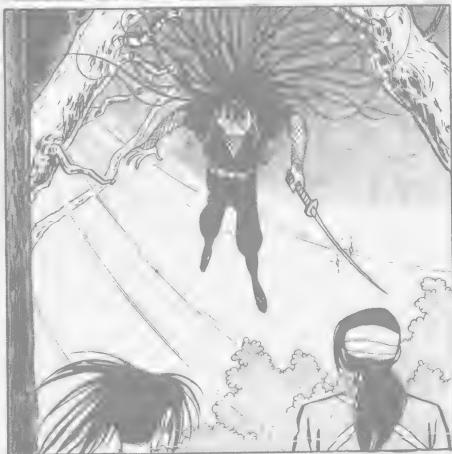
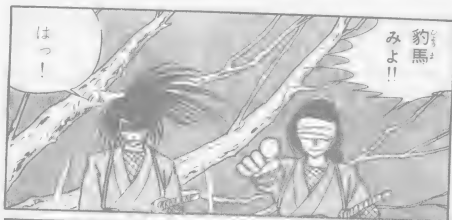
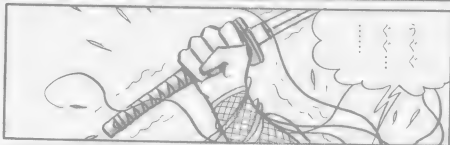
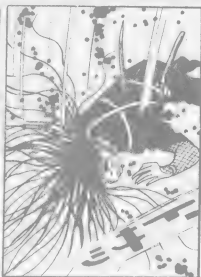
どうじゃ
弦之介
おれがみえるか?
みえぬ

おまえの死ぬところが
おれにはみえぬ
ニヤリ

な、
なに!!

豹馬(ひょうま)みよ!!
はっ!
あっ!!

うぐぐ
ぐぐ…
……

ばかめ！瞳の忍法をつかうのはおればかりではないぞ

無慙!!
念鬼はそれを
しらなかった
……
しかし
豹馬は ほんと
うにめくらで
あり この
おそろし
い目は
夜だけ
ひらくのである

弦之介さま!!
こ、これは伊賀者!!
うむ 声よりみて おそらく念鬼という男であろう
では蝶をつかって われらをたぶらかしたのはこやつでしたか
いや ちがう 虫をつかうは螢火という娘……
如月蝶はどっちでみうしなったか?
北のほうで
それでは螢火は南へはしったのだ

あっ
!!

如月どの
いまから
おえば
おいつけ
ますぞ

そら
この念鬼の
顔をつかっ
て螢火を
だませば
かんたん
に殺せ
る
よし!!
やるか

顔形をとらしてもらう

ふふ
きれいにとれた

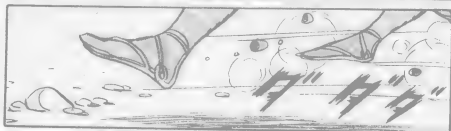
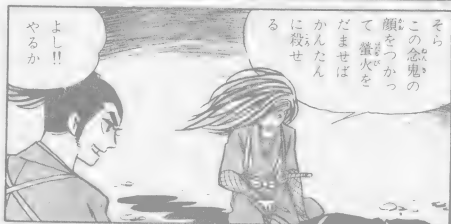
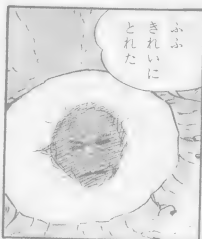
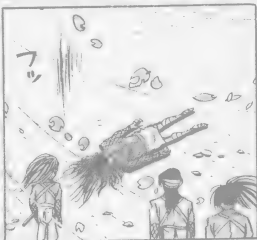
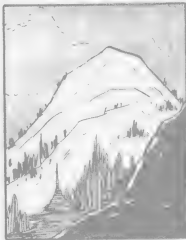
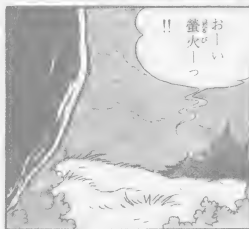
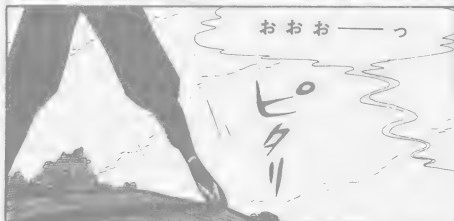
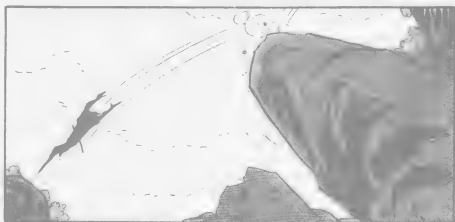
ガク

ふふふ
どうだ螢火

おお!!いつみてもみごとな変顔の術!!
ほっほほどこからみても伊賀の念鬼じゃ
フッ

おおお――っ
ピタリ

まあ あの声は ………
念鬼どのじゃ!!
おーい 螢火ーっ!!

念鬼どのーっ!!
螢火はここじゃーっ!!

おお
やっと
おいつけたな

よろこべ
螢火!!
え!!
では弦之介と豹馬を!!

討った!!
なにしろあいてはめくらじゃ
大根をきるよりもっとかんたんだったぞ

そのうえ蝶をみうしなってかえってきた陽炎という女までも
まあ!!

で、もうひとりの如月という男は?
ざんねんながらのがした

おしい!! 如月を殺れば甲賀十人組はぜんめつしたものを

だが如月ひとりならば…………
ほっほほほ わたしでも討てよう
ふっふふ 討てるかな 螢火 やつはだれにでもばける男だぞ

だれにばけてもみやぶってみせる!!
ふふ みやぶるか 螢火 甲賀の如月を

お、おまえは!!

甲賀の
き、
如月・・・

バシャーン

女を殺したくはないが……これも忍者のあらそいじゃ……

ヒラ ヒラ

ヒラ ヒラ ヒラ

不死身の天膳

なに!!
くろい蝶ですと?

雨夜念鬼蛍火の二人は死んだというしらせです……

うう……
な、なんたることじゃ!!

いいや
ふかいりしすぎてかえり討ちになったにちがいない!!
たわけが!!

これで伊賀十人衆は われら二人をのこすのみ……

天膳どのこれからの作戦は？

あっ!!

おのれ!!
刑部あらわれおったな!!
のがさん!!

刑部!!
血の霧をうけよ!!

ズ

ぬかったな
刑部 おれ
の毛穴から
ふきでる
血の霧を
あびては
どこへと
けこもうと
きさまの姿
はうきでる
のよ
ふっふふ

念鬼!!
う、
うむ!
みごとに
刑部を
殺った
なあ

念鬼 ぶじだったのか
!!
生きのこったのは わしひとりじや 蛍火、雨夜は むねんにも殺られた

うーむ ……そうか

見ろ こちらは刑部めに天膳どのが殺された

おお!! 天膳どのが死なれたのか
!!

そのうえ やつは朧さまの目もつぶしおったわ
!!

なに!!
朧さまの
目もか!!
そうよ
刑部め
はでに
やりや
がった

うーむ
そうなると
甲賀との勝
負きびし
いことに
なるなあ

ふふふ
しんぱい
かな?
念鬼
ニヤリ

ぐわっ!!

な、
なにもの
!!

わしは天膳!!
な、なに!!
わっはははは
甲賀の如月!! みごと 念鬼にばけたものじゃな!!

わしが死んだと？ くっくく たしかに いま殺された だが わしは死なぬ!!
しめ殺されても きられても 首でも きりはなさぬかぎり なんどでも生きかえる 不死身忍者が このわしよ くっくくくく
うくく ……

ふふふ刑部が朧さまの目をつぶしたとおもったか?
ばかめ!! 朧さまは伊賀をでるときからすでにめくらじゃ!!
ほんとうの念鬼ならばこのうそにきがつくはず!!
これで敵味方のこるは二人と二人か……
よし!! ここらでいっきに勝負をつけねばなるまい!!

無惨!!

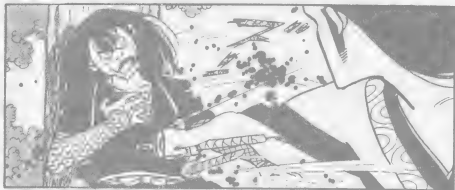
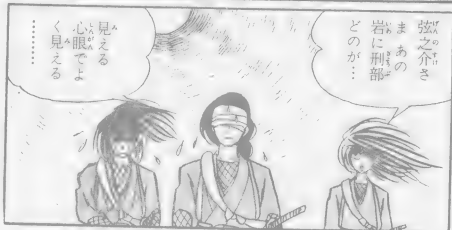
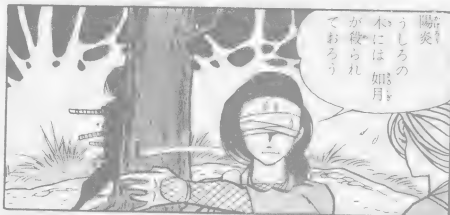
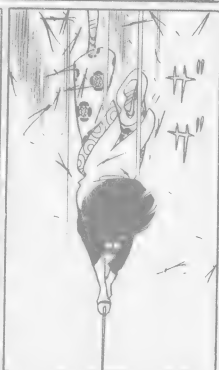
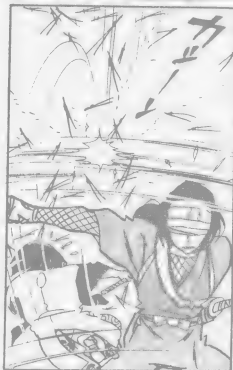
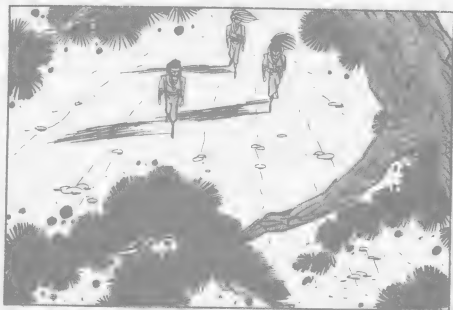
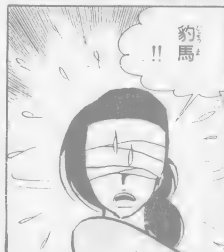
陽炎
うしろの
木には 如月
が殺られ
ておろう

おお!!
なんと
むざんな
!!

おのれ!!
伊賀者
かたきは
うつ!!

む!
弦之介
さま!!
しって
おる

殺気だ
!!

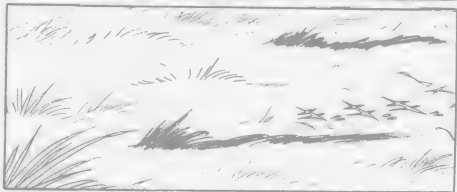
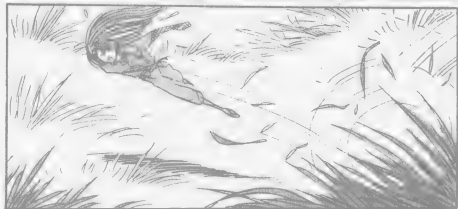
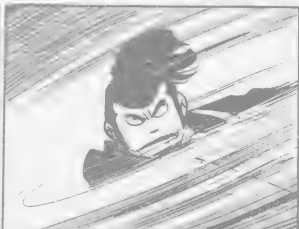
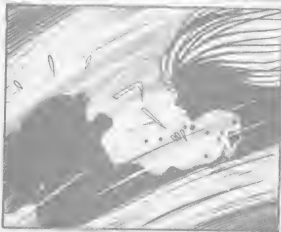
ザ
ザ
カッ

弦之介さま!!
ダダッ
豹馬!!

無念!!
おそるべき
瞳の忍法を
つかう豹馬
も 太陽の
下ではただ
のめくらに
すぎなかっ
た!!

ふふ
のがさん!!

ボキッ

うぐ……
わ、わたしの忍法あじわうがよい!!

あっ!! き、きさま!!

見よ!!
陽炎の
秘術こそ
おそるべ
し!!
彼女の
はく息は
死ぬとき
にかぎり
おそろし
い毒とか
わるので
あった!!

ふふふ いまこそ忍法あらそいの勝敗がきまるときじゃ
朧姫!! 弦之介のさいごのひめいをききなさるがよい ふっふふふ

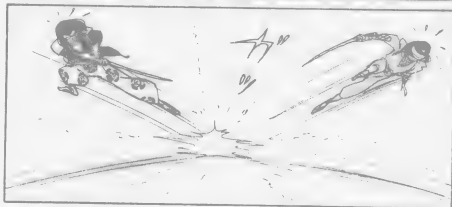
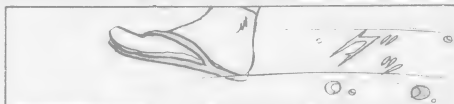
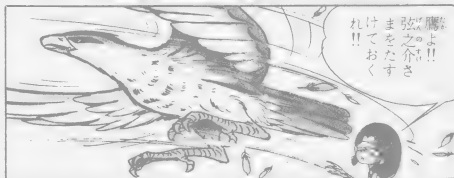
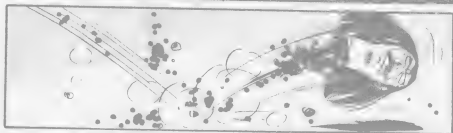
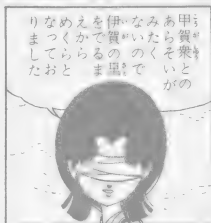
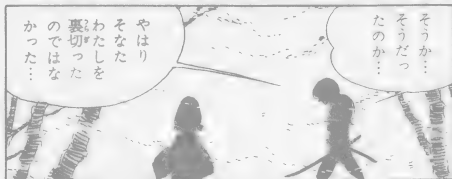
ガッ

バラッ

ふ! にわかめくらにしてはみごとなものだ!!
ニヤ

な、なに！
弦之介さまもめくら…

鷹よ!!
弦之介さまをたすけておくれ!!

あっ
!!

朧……
剣をとれ
いきのこったわれわれでたたかわねばなるまい…
だがわたしはめくらだ
討てるかもしれぬ
弦之介さま
わたくしもめくらでございます
なに？
甲賀衆とのあらそいがみたくないので伊賀の里をでるまえからめくらとなっておりました
そうか…そうだったのか…
やはりそなたわたしを裏切ったのではなかった…

弦之介さま　わたくしを斬ってください　朧はそのためにここへまいりました
朧……
わたしはそなたを斬れぬ……朧　わたしはいく……
え！どこへ？
どこか……しらぬ……
スタスタ
スタスタ

弦之介さま……

朧……
……

この人別帳のために……

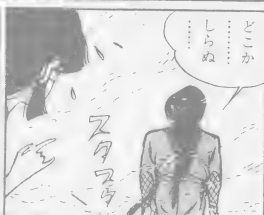
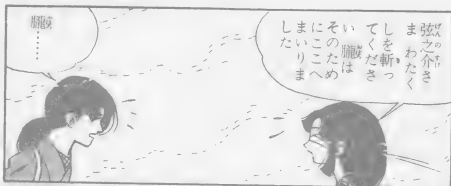
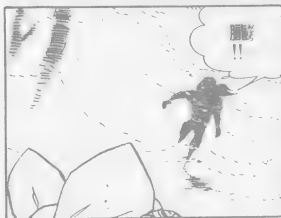
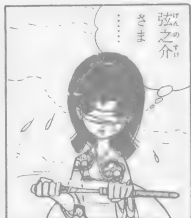
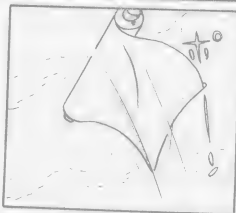
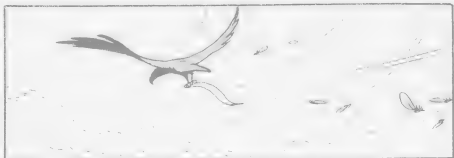
ポ
!!

朧のかちだ!!
城へいけ!!

いったいわたしはなんのためにたたかったのか……
それさえもわかってはおらぬ……

ただもうよいすべてはおわった……

いこう
二人でどこかへ……

（完）

「甲賀忍法帖」と忍者マンガブームの時代

想田　四

山田風太郎が「忍法帖シリーズ」の第一作、「甲賀忍法帖」を発表するのは一九五八年のことだ。敵味方それぞれのチームに分かれ、奇怪な秘術を駆使して闘いを繰り広げるこの奇想天外な物語は、バトルものの元祖であり、司馬遼太郎の「梟の城」などとともに昭和三〇年代忍者小説ブームの先駆けとなった作品である。マンガにおける忍者ものの流行はこれよりやや遅れ、忍者小説ブームを追いかけるような形で始まるが、「甲賀忍法帖」は忍者マンガにも大きく影響を及ぼすことになる。

古色蒼然たる忍術使いから脱却して、忍法に科学的解説をほどこし、リアリティのある忍者像を描き出した白土三平によってスタートした「忍者マンガ」。その一大潮流となったのが、五九年暮れより貸本マンガとして刊行が開始された白土の「忍者武芸帳」、そして六一年より「週刊少年サンデー」で連載が始まった横山光輝の「伊賀の影丸」である。このうち「伊賀の影丸」は第一話「若葉城のひみつ」において、登場する忍者の秘術や場面などその多くを「甲賀忍法帖」から借りて来ており、ほとんど翻案といってよいほどに酷似した内容となっているのだ。「甲賀忍法帖」からエロチシズムやドラマを抜き去り、闘いのゲーム性を前面に押し出して展開した「伊賀の影丸」は、大人気作となり、少年マンガに忍者ものの一大ブームをもたらしていくのである。それは「甲賀忍法帖」をルーツとするバトルものが、純化されたエン**ターテインメントとしてマンガの中に定着していく有様でもあった。**

作画を担当した小山春夫は、絵物語作家を目指して有馬から上京してきたものの、絵物語が壊滅状態になったためにマンガ家へ転向したという経歴の持ち主で、武内つなよしや桑田次郎のアシスタントをしつつ自作を発表していたが、忍者武芸帳に衝撃を受けて六〇年の暮れ頃よりそれまでの作風を一変させ、白土風忍者マンガを発表し始める。当時少なからず存在した白土タイプの中でも抜群の画力を持ち、かつて白土作品を多数出版していた東邦図書出版社が、他社で新作を発表するようになった白土の後釜として白羽の矢を立てたと言われる描き手である。

だが東邦は小山の名を特段売るつもりはなかったとみえて、第一巻では作画クレジットが「東邦プロダクション」とされている。六一～六二年頃の東邦図書出版社の発行物には東邦プロ名義で発表された作品が多いが、その実態についてはよくわからない。『甲賀忍法帖』に関していうなら、第一巻のカバー絵のみ別人の手によるもので、他は小山春夫と小山の手伝いをしていた夫人で少女マンガ家の小山弘子によって仕上げられた作品とみてまず差し支えないだろう。ちなみに第一巻のカバー絵を描いたのはおそらくとや
半で、『甲賀忍法帖』を模倣することで始まった『伊賀の影丸』の扉絵を、逆に模倣し返すというどことな

く因縁めいた構図となっている。

『甲賀忍法帖』は八〇円ハードカバーの装丁で刊行され、山田風太郎人気と相まって好評を得たようだ。小山春夫のシャープなタッチとエロス、スピーディーな演出は冴えており、朧とお胡夷を担当した小山弘子の描くヒロインも作品に花を添えているが、惜しむらくは当時の少年マンガの状況は未だ、エロチシズムを前面に出すことができなかったことだろう。だからこそ、くノ一である朱絹は男忍者の赤まむしへと変わり、死の息吹を持つ陽炎が絡むシーンは大幅に変更あるいは割愛せざるを得なかったのである。とりわけ原作の

ラスト近くの展開が、あまりにもエロスと結びつきすぎているせいかすっぽり抜け落ちているのは残念というほかないのだが、おそらく小山自身も不満が残るマンガ化だったに違いない

この作品の製作、小山春夫は白土三平にスカウトされて赤目プロに入り、作画のチーフとして「ワタリ」や「カムイ外伝」などを担当。七〇年以降は青年マンガ誌に進出し、「甲賀忍法帖」で割愛せねばならなかった妖しいエロスに満ちた忍者マンガを多数発表していくのだが、それはまたずっとのちの話となる

山田風太郎と『甲賀忍法帖』

森 英俊 大衆小説収集家

一九六〇年代半ばに小学生だった筆者は西アフリカのガーナという元英国領の国に暮らしていたが、そこには本国と同じく「忍法帖ブーム」が巻き起こっていた。生まれて初めて読んだ漫画が横山光輝の『伊賀の影丸』だったことから、どっぷり忍者漫画にはまってしまった筆者は、やがて白土三平の存在を知り、ちょうど新書版が刊行され始めていたこともあって、『サスケ』や『忍者武芸帳』といったあたりを、郵便で取り寄せては読みふけった。白土作品は大人たちのあいだでもたちまち回し読みされるようになったが、それらと並行して回し読みされていたのが、講談社の『山田風太郎忍法全集』である。一九六三年から翌年にかけて刊行され、十巻の予定が、圧倒的好評につき、十五巻まで増巻された。新書版の全集で、累計三百万部を超えるベストセラーになったというから、そのブームがはるかアフリカの地にまで伝わっていても不思議はなかった。

岩谷書店の探偵雑誌『宝石』の短編懸賞に投じた「達磨峠の事件」でデビューしてから十数年、忍法帖ブームの到来によって、ようやく国民的作家の仲間入りをした風太郎だが、そのことによって同時に忍法帖作家というレッテルが貼られてしまったことも否めない。ブームが鎮静化したあとも、忍法帖物をはじめとする時代小説群のほうは角川文庫に収められ、佐伯俊男のカラフルなカバー絵や、ジュリーこと沢田研二の出演した角川映画「魔界転生」（一九八一）の公開とも相まって、広く世間の注目を集めた

「虚像淫楽」と共に第二回日本探偵作家クラブ賞（短篇部門）を受賞した傑作「眼中の悪魔」（一九四八）は、浮世絵画家の妻をめぐる犯罪の顛末を描いているが、彼女は夫によれば「時々眼が見えなくなることがある」という。物語が進むにつれ、彼女の眼の中に潜んでいる恐るべき悪魔が、すべての悲劇の源になっていることがわかってくる。

「眼中の悪魔」の同年に発表された「万太郎の耳」の主人公は、五つの感覚器官（悉く）から音響を感受する特殊能力の持ち主。そのため目の前にいる相手の感情を察知することができるが、かえってそのことによって、災いがふりかかる。

「万人坑」（一九四九）には、トカゲの尻尾のような再生能力（本人の表現によれば「生える」）を持つ、薬師寺大膳のプロトタイプともいうべき不死身の人間が出てくる。

ほぼ同時に雑誌に発表された「双頭の人」（一九四九）と「黒檜姉妹」（一九四九）は、同じアイディアを用いつつも、違った形でのアレンジが加えられている。どちらも美女が重要な役割をはたしているだけに、おそろしい。

「畸形国」（一九五一）は、その表題がなにより雄弁に内容を物語っている。

「蠟人」（一九五一）で描かれるのは、生まれたての赤ん坊でなければ、子供でさえ出入りできない、窓の外に細い鉄格子のはまったアパートの一室で起きた密室殺人。その謎を握っているのは、骨が異常にやわらかく、関節でもなんでもないところがまるで蠟細工のようにくにゃりと曲がる、弥々なる水母娘である。

「姿なき蠟人」（一九五一）は、その「蠟人」で扱ったアイディアをジュニア向けに流用したもの

風太郎作品に登場する異形者たちのなかでのきわめつけが、「陰茎人」（一九五一）の主人公。なにせ、鼻のあるべきところに陰茎がぶらさがり、陰茎のあるべきところには鼻がある、というのだから。「魔人平家ガニ」（一九五七）には、文字通りの魔人が登場。平家ガニのような顔をし、手足が長く、こうもりみたいに空を飛ぶ魔力を備えているうえ、不死の吸血鬼で、女の血を飲むときているから、なんとも始末が悪い。

集英社の出していた少年雑誌《おもしろブック》の一九五七年夏休み漫画読物号に掲載されたこの「魔人平家ガニ」をのぞくすべての作品が、一九四八年から一九五一年にかけて発表されており、この時期の作者がいかにめしいや異形や異能の者たちを描くことに関心を抱いていたかがわかる。なかでも「万人坑（ワンインカン）」と「蠟人」には『甲賀忍法帖』の忍者たちのプロトタイプが見られるので、幸運にもまだ未読だというかたは、是非ともそれらを『甲賀忍法帖』と読み比べてみていただきたい。

さて、本稿も締めの段階に近づいてきたが、本書の漫画としての位置づけについては、ほかのかたが取りあげると思われるので、ここでは原作との関連性について軽くふれるに留めておく。

漫画版『甲賀忍法帖』では、読者層を考慮してか、原作の随所に見られたエロティシズムは極力抑えられている。そのため、上半身裸になって毛穴から血のしぶきを噴出する妖艶な朱絹（あけぎぬ）は、いかつい赤まむしなる忍者に性別ごと変えられている。そのほかにも、対戦相手が違っていたり、最期のもようが異なっている者たちがおり、結末にも若干アレンジが加えられている。とはいえ原作の持ち味は十二分に再現されており、だからこそ、この秀作漫画がほとんど世に知られることなく、半世紀以上ものあいだ埋もれてい

たのは、驚き以外のなにものでもない。カラー頁にいたるまで忠実に再現された今回の復刻はまさに夢の企画と呼びうるもので、風太郎の愛読者のひとりとして、また白土チルドレンとして、心から喜びたい。

今日の人権意識に照らして不当・不適切と思われる語句や表現については、すでに原作者が故人であることから、作品の時代的背景と文学的価値とをかんがみ、そのままとしました。

時代長編漫画

甲賀忍法帖

著　者　小山春夫
原　作　山田風太郎
発行日　2016年11月25日
協　力　日下三蔵・小野純一・田中すけきよ・善渡爾宗衛
　　　　小山力也
発行者　高橋　誓
発行所　アップルBOXクリエート
　　　　〒124-0023　東京都葛飾区
　　　　東新小岩2-2-12　高橋方
印刷所　タイヨー美術印刷株式会社